

ミズベリング構想検討会議概要

①第1回 NTT 用地周辺活用策検討会議

平成28年9月27日(火) 午後3時～ 委員22名出席

冒頭、市長あいさつでは、ミズベリング構想の中でも NTT 用地の活用は大きなテーマである。これまで10の検討会議において検討してきたが、6月に開催したミズベリング構想関係全体検討会議において、10の検討会議を4つに整理統合することで了承をいただいた。4つの検討会議の中で、一番大きなテーマを抱えた会議が、この NTT 用地周辺活用策検討会議である。これまでに市民の皆様・関係企業等からいろいろなご提案をいただき進めてきたが、経過はご承知のとおりである。NTT グラウンドは、笛吹市にとって大事な財産であると私は捉えている。皆様方には、NTT グラウンドを笛吹市の未来に向けて活かして行く、このような立場からご意見をいただきたいと思います旨の挨拶がありました。

続いて、公募による2名の委員が新しく検討会議に加わったことから参加者全員による自己紹介を行いました。

その後、検討会の再編に伴う NTT 用地周辺活用策検討会議設置要綱の策定や委員の任期については、引き続きお願いしたい旨の説明を事務局より行い、出席委員の皆さんから了承をいただき議事に入りました。

*検討事項(1) 笛吹川親水護岸整備について

(国土交通省甲府河川国道事務所調査第一課坂本課長より資料に基づき説明)

【質疑応答】

・高水敷に工作物は可能か。

⇒基本的には工作物を作ることは出来ない。高水敷は、水位が上がると水がつく場所になる。

・笛吹川左岸にも広大な敷地があるが、黄色で囲んだ右岸の高水敷は、左岸に比べて水につかりにくいということか。また、面積はどのくらいか。

⇒右岸・左岸どちらの高水敷が水につかりにくいかということであれば、基本的に右岸も左岸も差はない。今回の親水護岸整備において、高水敷の利用を検討した場合アクセス面から見ても使い勝手が良いのは、右岸の黄色で囲んだ部分だと思う。多少の整地は必要だが、イベントや地域の催し等にも活用出来る場所として考えていただきたい。黄色で囲んだ部分の面積は、およそ4,500㎡である。

・土手の上に工作物は可能か。また、笛吹川の流量を増やすことは出来るか。

⇒条件により工作物の設置は可能である。流量については、廣瀬ダムの管轄が県であり、県との調整が必要。

***検討事項（２）NTT 用地周辺活用策について**

（事務局より資料に基づき説明）

【質疑応答】

- ・野外ステージについては、どのくらいの収容人数を見込んでいるのか。
 笛吹市は、圏央道もできアクセス面も向上している。大きなイベントが開催出来れば、観光面も含め経済効果が見込めるのでは。

⇒これは、活用例（案）であり、具体的な収容人数の見込みを持っていない。

今後、河口湖を含め、県内外のイベントスペースについて、収容規模や採算性等を調査し、次回の検討会議までにお伝えしたい。また、周辺に病院もあり騒音問題も含め調査したい。

- ・ブルガリアにセーチェーニ温泉という長期滞在型の立ったまま入る温泉があった。笛吹市にも水着を着て入る湯湯治温泉を作ったらどうか、また、周囲に健康遊具等を配置するなどして、一つの施設としてはどうか。

- ・NTT 用地・跡地と呼んでいるが、他の呼び名に変更出来ないか。

⇒名称については、購入後に変更を検討したい。

- ・首都圏から企業を誘致しビジネスビレッジとして活用できないか。
- ・中途半端な施設を作るより大きな集客が出来る施設を。
- ・山梨は暑いので駐車場の上にブドウ棚を作ってはどうか。
- ・JR 石和温泉駅からも直接来ることができる場所として PR すべき。
- ・富士河口湖は、前小佐野町長が官手動で集客施設を積極的に作り成功している。石和は泊まる所はあるが楽しむ所はない。NTT 用地は、観光客を集客するための施設なのか、市民向けの施設なのか用途をはっきりすべき。集客施設であれば、全国区で名前が知れ渡るような施設を作るべき。
- ・観光客が滞在できるような施設を作るべき。JR の駅や一宮御坂 I Cからも近く立地も良いため、市民の場所というよりお金を生む施設等が必要ではないか。
- ・交流人口を増やす方策を。

16時25分閉会

・親水護岸整備後には、堤防の上面や高水敷にオープンスペースが有効利用が可能となる。

